



『米原万里の「愛の法則」』

米原万里

集英社／集英社新書

生田分館

請求記号：J/914/Y82

資料ID：701029597

国際コミュニケーション学部教授 井上 幸孝

表題を見ると恋愛本かと思うかもしれませんが、米原万里はロシア語の通訳として活躍した人物（2006年没）です。同時通訳者というだけあって、この人はとにかくことばに対する感覚が鋭い。言語に関わる経験も洞察も実に豊かです。何冊もエッセイを出版しているのですが、とっつきやすさという観点からこの本を挙げてみました。

本書は、高校生や一般市民を対象にした4つの講演を収めたものです。確かに第1章は文学作品などを例に挙げながらの「愛の法則」の話なのですが、ことばに関係して彼女の本領が発揮されるのは、第2章「国際化とグローバル化のあいだ」以降の3つの章です。第3章「理解と誤解のあいだ」は、通訳者の立場から言語とは何かという問題に向き合っています。さらに、第4章「通訳と翻訳の違い」では自伝的な内容とともに語学習得の方法について知ることができます。

皆さんの中には、流暢に会話できることが言語に堪能であることと思っている人、あるいはAIなどの進化によっていずれ語学学習など不要になると思っている人もいるかもしれません。しかし、一流の同時通訳者という「ことばのプロ」米原万里の文章に触れると、そうした安易な考えは吹き飛ばされてしまいます。私たちはどう外国語を学び、何を目標にしたいのか。言葉を解するというのはどういうことなのか。そうしたことをあらためて考えさせてくれる一冊です。